目　　次

はじめに　3
公開ワークショップ当日プログラム　6
馬渕明子　ご挨拶　8
水谷長志　基調報告およびアンサー・シンポジウムについて　10
JAL2016 関係者一覧　15
— 9 人の招へい者　自らを語る —
マルタ・ボスコロ・マルチ　国立ヴェネツィア東洋美術館長　19
メレッテ・ピーターセン　コペンハーゲン大学図書館員　36
クリスティン・ウィリアムズ　ケンブリッジ大学図書館員　43
テロ・サロマー　北海道大学欧州ヘルシンキ事務所副所長　49
ヴァレンティナ・フォルミサノ　ラファエレ・セレンターノ・アート・ギャラリー，ナポリ　54
グッド長橋広行　ピッツバーグ大学図書館員　62
ウェイン・アンドリュー・クロザース　オーストラリア国立ビクトリア美術館キュレータ　68
ゲルガナ・ペトコヴァ　ソフィア大学現代日本研究センター所長　75
アウローラ・カネパーリ　キヨッソーネ日本美術館ボランティア　80
— 特別招待講演 —
アンカ・フォクシェネアヌ教授　ルーマニア・ブカレスト大学日本研究センター長
「東欧における日本研究の情報・資料収集の問題－博士課程の事例を中心に」（英文）85
— 「日本美術の資料に関わる情報発信力の向上のための提言 III」 —
■第 1 グループ：ボスコロ、ペーターセン、グッド長橋
「日本から海外へ　日本におけるデジタル化の活動をいかにして外国人研究者に伝えるか」　111
■第 2 グループ：サロマー、フォルミサノ、ペトコヴァ
「アートは世界の遺産」　118
■第 3 グループ：ウィリアムズ、クロザース、カネパーリ
「日本の文化資源を広めるための協力」　124
— コメンテータから —
江上敏哲（実行委員/国際日本文化研究センター資料課資料利用係長）
コメンテート：①グループによる「提言」を受けて ②JAL・研修全体を受けて　131
— エッセイ —
谷口英理（実行委員/国立新美術館学芸課美術資料室長）
「ピッツバーグ大学での JAL 出張セミナー開講の試み」　137
ジョン・ウッド（プログラム・コーディネー/タロンドン大学 SOAS 図書館）
「The JAL Project in 2 years」　145
酒井晶（WS サポータ/東京国立博物館学芸企画部博物館情報課情報管理室）
「JAL2016　グループ・プレゼンテーションのサポートを通しての雑感」　150
アンサー・シンポジウム「JAL2016WS「日本美術の資料に関わる情報発信力の向上のための提言 III」への応答　－　“またもや”感を越えて」プログラム　155
アンサー・シンポジウム全発言　159
アンサーシンポジウム登壇者によるプレゼンテーション・スライド　190
JAL2016 海外日本美術資料専門家（司書）の招へい・研修・交流事業実行委員会
「日本美術の資料に関わる情報発信力の向上のための課題解決についての提案」　211
—資　料—
JAL2016 招へい者履歴および自己紹介　294
JAL2016 応募要項　305
JAL2016 Call for Application　311
ワークショップ・アンケートから　318
アンサー・シンポジウム・アンケートから　320
JAL2016 主な日誌　322